

協友アグリ営農支援NEWS

協友アグリ株式会社 普及・マーケティング部

TEL:03-5645-0706 FAX:03-3639-5299

現場での病害虫・雑草管理に少しでもお役立て頂く事を目的に、当社の主要農薬に関する新知見・適用拡大等のトピックや最近問題となっている病害虫・雑草とその対応方法などの情報を同紙にて紹介させていただきます。拝読頂く皆様方の病害虫・雑草管理、品質の高い作物生産の一助となれば幸甚です。

ご質問等ございましたら、当社 HP を介して、あるいは上記 TEL 迄、お気軽にお問合せ下さい。

今回の NEWS ですが、

期待の天敵「カメノコS」7月1日より新登場！！

ワタアブラムシ、モモアカアブラムシに加えてヒゲナガアブラムシも旺盛に捕食します！

につきましてご紹介させていただきます。

登録内容

■ 適用害虫と使用方法 (2014年6月時点)

有効成分:ヒメカメノコテントウ成虫 100頭/300ml

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法	総使用回数
野菜類 (施設栽培)	アブラムシ類	0.5~2頭/株	発生初期	放飼	—

ロゴと製品写真



カメノコS

- ・農林水産省登録第 23413 号
- ・規格：100 頭×300ml ボトル
- ・有効成分：ヒメカメノコテントウ成虫
- ・その他成分：鉱物質
- ・性状：亀甲型紋またはセスジ型紋甲虫
- ・体長：約 4 mm
- ・原産：日本（野外にもいる在来の天敵です）
- ・製造場所：兵庫県
- ・取扱いメーカー：協友アグリ



特長

- ・モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ヒゲナガアブラムシなど多種のアブラムシ類を捕食します。
⇒既存のコレマンアブラバチを有効成分とした天敵はヒゲナガアブラムシへの防除効果は期待できません。
- ・定着性が高く逃亡しにくい。他のテントウムシ製剤と比較して寿命が長いです。
- ・暑さに強いので、夏季のハウスでも使用可能です。
- ・国内製造のため、**最短**で受注後翌日から出荷可能です。

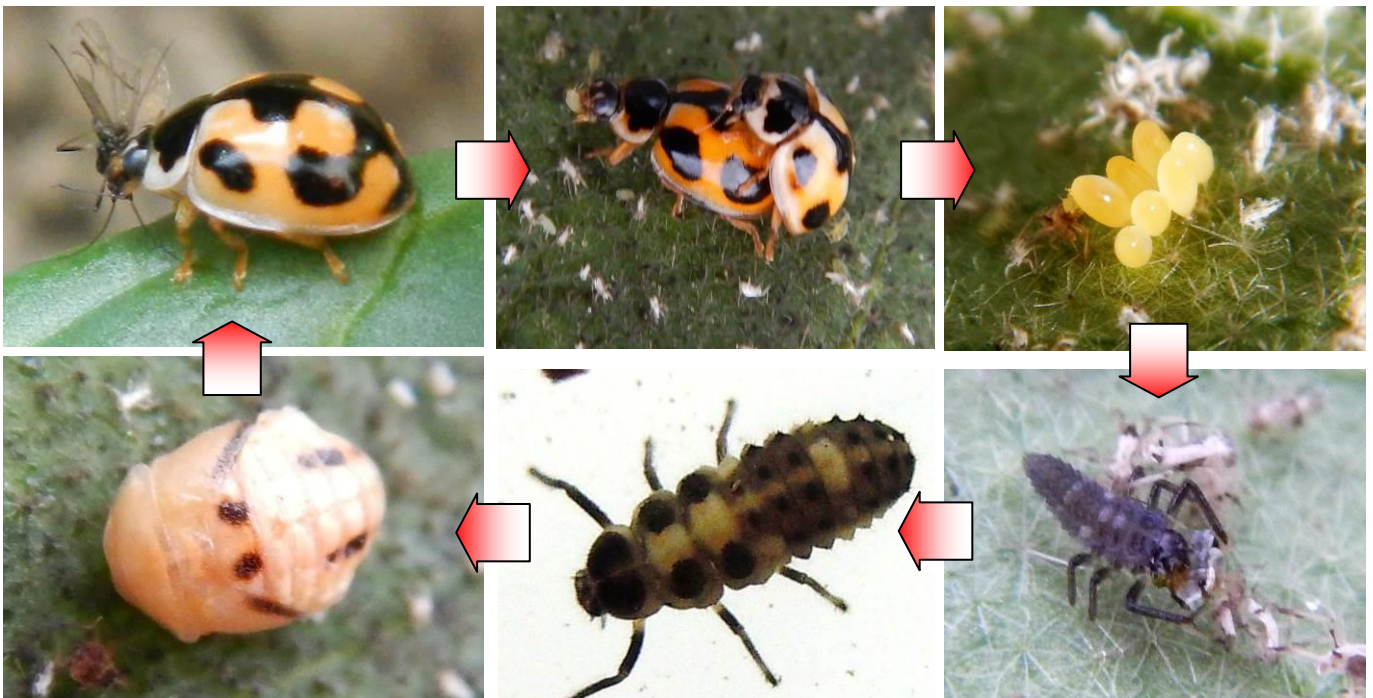
生態的特徴

- ・捕食範囲：アブラムシ類 幼虫と有翅虫
(花粉、コナジラミ類、アザミウマ類、カイガラムシ類も捕食します。但し、防除効果は検証できていません。)
- ・発育所要日数：

温度	卵	幼虫	蛹	合計
15℃	12.3	22.8	9.6	44.7
20℃	5.9	12.7	5.6	24.2
25℃	3.7	7.7	3.1	14.5

高温の方が発育所要日数は短いです。
⇒**厳冬期の放飼は増殖しにくいので避けてください。**

- ・1日当たりの捕食量（アブラムシ2齢幼虫の場合）
幼虫期：最大約70頭/1日（合計約200頭）、成虫期：最大約50頭/1日（合計約4200頭）
- ・活動温度：15℃～35℃（増殖適温20℃～30℃）
- ・成虫寿命：25℃で約90日（ナミテントウ：約60日）
- ・雌成虫の総産卵数：毎日～数日間隔で約900卵（羽化から産卵まで3～5日必要）
- ・移動距離：1回に10～20m移動していることが確認されています。
- ・各ステージ別の写真



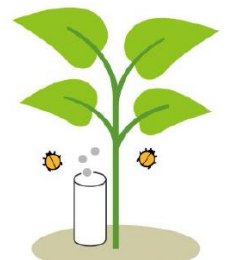
上段：成虫、交尾、卵 下段：若齢幼虫、老齢幼虫、蛹
製品には、雌成虫と雄成虫が約1：1で封入されています。
また、亀甲型紋とセスジ型紋の比率は約7：3です。
雄成虫は一回り小さく、頭に白い点があります（左写真）。



放飼方法



葉上に放飼



株元に放飼

- ・ 成虫がボトルの上部にいるため、容器を軽く叩いてふた裏の成虫を落としてください。
- ・ 中身が均一になるように容器をゆっくりと回転させてください。
- ・ 内蓋（フィルム）をめくって放飼してください。

アブラムシ類は増殖スピードが早いため、発生初期に、できるだけアブラムシ類の見られる株全部に放飼してください！


- ・ 既にアブラムシ類が多発（圃場全体に発生している状況）では、エコピタ液剤など天敵に影響の少ない薬剤を散布した後、放飼してください。

お勧め作物

天敵を使用し、薬剤が制限される施設果菜類

⇒ナス・ピーマン・ししとう・いちご

放飼例

時期	6~7月	8月	9月	10月	11月	12~1月	2月	3月	4~6月
栽期		定植				生育期~収穫期			
アブラムシ類									
			放飼					追加放飼	
		発生場所に1本~2本放飼。アブラムシ剤の不足する時は追加放飼か、影響の少ない薬剤を散布。							

お勧め地域

① 施設ピーマン、ししとうの栽培地帯

⇒夜間の管理温度が18℃以上のため、増殖しやすい環境です。

② タバコカスミカメを指導しているJA

⇒タバコカスミカメを放飼するとアブラムシ類の防除薬剤が制限されるため、同じ薬剤を連用せざるを得ない状況があります。連用を回避するためにも、カメノコSをお勧め致します

天敵へ影響のある薬剤について

表1

薬剤名	カメノコS		薬剤名	カメノコS	
	成虫	幼虫		成虫	幼虫
有機リン剤			その他		
スミチオン乳剤	△ (3)	○ (3)	チェス顆粒水和剤	◎ -	◎ -
マラソン乳剤	△ (3)	× 未	ウララDF	◎ -	◎ -
合成ピレスロイド剤			スピノエース顆粒水和剤	◎ -	◎ -
アディオン乳剤	× (28↑)	× (21)	コテツフロアブル	◎ -	◎ -
アーデント水和剤	× (28↑)	× (14)	トルネードフロアブル	○ (3)	◎ -
IGR剤			アフーム乳剤	◎ -	◎ -
カスケード乳剤	◎ -	○ 未	プレオフロアブル	◎ -	◎ -
アブロードエースフロアブル	◎ -	○ (14)	フェニックス顆粒水和剤	◎ -	○ (3)
ファルコンフロアブル	◎ -	◎ -	コルト顆粒水和剤	◎ -	◎ -
マトリックフロアブル	◎ -	◎ -	ディアナSC	◎ -	◎ -
トリガード液剤	◎ -	◎ -	プレバソソフロアブル	◎ -	○ 未
マッチ乳剤	◎ -	× 未	ハチハチ乳剤	× (14)	× (7)
アタブロン乳剤	◎ -	× 未	モベントフロアブル	◎ -	◎ -
ネオニコチノイド系			アニキ乳剤	○ (14)	○ (21)
モスピラン水溶剤	× (21)	× (21)			
アドマイヤー顆粒水和剤	× (28↑)	× ?			
ダントツ水溶剤	× (14)	× (21)			
スタークル顆粒水溶剤	× (3)	× (3)			
アクタラ顆粒水和剤	× (3)	× ?			
ベストガード水和剤	× (3)	○ (3)			

有機リン系、合成ピレスロイド系、ネオニコチノイド系との併用は困難です。

展示圃を行うには、影響のある薬剤を散布していない圃場で行ってください。

試験方法: 虫体浸漬法

◎: 死亡率0~30%、○: 30~80%、△: 80~99%、×: 99~100%

→影響ありの剤のみ、残効性試験を実施

カッコ内数字は影響の残る日数(死亡率25%以下で影響なしと評価)

表2

薬剤商品名	カメノコS		薬剤商品名	カメノコS	
	成虫	幼虫		成虫	幼虫
殺虫・殺ダニ剤			気門封鎖系		
ピラニカEW	○ (3)	◎ -	オレート液剤	◎ -	◎ -
殺ダニ剤			サンクリスタル乳剤	◎ -	× (3)
ニッソラン水和剤	◎ -	◎ -	アカリタッチ乳剤	△ (3)	◎ -
コロマイト乳剤	× (3)	◎ -	粘着くん液剤	◎ -	◎ -
オサダンフロアブル	◎ -	-	エコピタ液剤	○ 未	○ 未
カネマイトフロアブル	◎ -	◎ -	殺虫殺菌剤		
ダニサラバフロアブル	◎ -	◎ -	モレスタン水和剤	◎ -	◎ -
マイトコーネフロアブル	◎ -	◎ -	殺菌剤		
スターマイトフロアブル	◎ -	◎ -	スミレックス水和剤	◎ -	◎ -
ダニトロンフロアブル	◎ -	◎ -	ダコニール1000	◎ -	◎ -
パロックフロアブル	◎ -	◎ -	ロブラール水和剤	◎ -	◎ -
BT剤			トリフミン水和剤	◎ -	◎ -
エスマルクDF	◎ -	◎ -	カスミンボルドー	◎ -	◎ -
ゼンターリ顆粒水和剤	◎ -	◎ -	アミスター20フロアブル	◎ -	◎ -
フローバックDF	△ 未	◎ -	ポリオキシンAL水溶剤	◎ -	◎ -
微生物製剤(殺虫)			カンタスドライフロアブル	◎ -	◎ -
ボタニガードES	○ 未	○ 未	セイビアーフロアブル	◎ -	◎ -
ゴツツA	△ 未	◎ -	スミブレンド水和剤	◎ -	◎ -
			フルピカフロアブル	◎ -	◎ -
			パンチョ顆粒水和剤	◎ -	◎ -
			トップジン水和剤	◎ -	◎ -

試験方法: 虫体浸漬法

◎: 死亡率0~30%、○: 30~80%、△: 80~99%、×: 99~100%

→影響ありの剤のみ、残効性試験を実施

カッコ内数字は影響の残る日数(死亡率25%以下で影響なしと評価)

コロマイト乳剤、サンクリスタル乳剤との併用は注意が必要です。

上記表は、住化テクノサービスの社内試験結果に基づく。